令和3年度　大田区立雪谷中学校　自己評価　報告書

令和4年2月21日

○　本校の概要

ＹＡＳ　Yukigaya Active School　～常に動き続け、「積極的・自発的」（active）に「より良い学校」を目指す～

【目指す生徒の姿】
1）自己や他者の良いところに目を向けることができ、自己肯定感が高い生徒　2）コミュニケーション能力、表現力を持ち、他者と協働できる生徒　3）学力・体力の向上を目指し、ねばり強く努力する生徒

【目指す学校教育の姿】
1）わかりやすく、生徒が主体的に学べる授業　2）様々な個性を持つすべての生徒に対する温かく根気強い支援　3）保護者の思いを理解した、良きパートナーとしての誠意ある連携

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

保護者アンケート回収率 51.2%

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン１　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	学校評価アンケート 生徒項目１ 「授業や家庭学習で、タブレットなどのICT機器を活用して学習することができている」 生徒項目２ 「授業や学校生活で、友達と話し合ったり、協力しながら活動することができている」 に対する肯定的回答の%	4: 1 80%以上 2 80%以上 3: 1 70%以上 2 70%以上 2: 1 60%以上 2 60%以上 1: どちらかが60%未満	3	生徒項目1「授業や家庭学習で、タブレットなどのICT機器を活用して学習することができている」への肯定的回答は79%であった。 成果指標「4」にあたる80%にはわずかに届かなかったが、ほぼ8割の生徒が、「自分はICT機器を活用して学習することができる」と感じていることがわかる。雪谷中学校では、今年度、１人１台配布された生徒用タブレットを、全教科の授業で活用しており、生徒たちもスムーズに活用できるようになってきている。ただし、タブレット端末では様々な作業ができるため、現在でも、途中で操作がわからなくなり、教員やICT支援員に質問する生徒も見られる。引き続き活用を続けることで、技能の習熟を図りたい。 生徒項目2「授業や学校生活で、友達と話し合ったり、協力しながら活動することができている」への肯定的回答は95%であった。 現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、授業では机を合わせて対面で行う班学習を控えているが、意見を発表したり、人の意見を聞く活動を行い、対話的な学びの実現に務めている。また学級活動や行事、部活動など、学校生活の様々な場面で、友達と話し合い、協力して、目標を達成する活動を大切にしている。 それらの活動によって、多くの生徒が「達成感があった」「自己肯定感が高まった」と感じている（面談・面接練習等での聞き取りより）。 今後も他者を尊重し、協働する活動を推進し、生徒のコミュニケーション能力の向上に努めたい。	A B C D	4 1 0 0	○コロナ禍において、タブレット使用等新しい事が導入されても、それに即対応され、子どもたちが活用できている様子が分かります。学びを止めず、困難な中でもコミュニケーションを取りながら学校生活が送れているようです。 ○生徒さん自身が、達成感の喜びや充実感が感じられると、成長へとつながっていきますので、さらなる向上をお願いいたします。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4							
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ＩＣＴ機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4							
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
		学級活動、学校行事、委員会活動、部活動等で、他者と話し合ったり、協力しながら活動する場面を設定し、コミュニケーション能力を育成する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン２　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	学校評価アンケート 生徒項目３ 「前向きに学習に取り組むことができている」 生徒項目４ 「授業では、話し合い活動や発表する活動で、友達の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができている」 に対する肯定的回答の%	4: 1 80%以上 2 80%以上 3: 1 70%以上 2 70%以上 2: 1 60%以上 2 60%以上 1: どちらかが60%未満	4	生徒項目3「前向きに学習に取り組むことができている」への肯定的回答は85%であった。 各教科で学習の仕方を指導し、定期考査前にはまとめの資料を配布するなど、生徒が学習しやすいよう支援している。また、連絡ノート「忘れないぞう」に学級担任がコメントを記入することで学習や生活への助言を行っている。個別支援としては、学校の授業がない土曜日に年間6回の「土曜授業教室」を実施し、夏季休業中には「補習教室」を実施した。大部分の生徒が前向きに学習に取り組んでおり、今後も引き続き支援に努めたい。 生徒項目4「授業では、話し合い活動や発表する活動で、友達の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができている」への肯定的回答は90%であった。 対話的な学びによって視野を広げ、理解を深めて、思考力・判断力・表現力を育成することは、生きた学力の獲得に欠かせない。東京都の中学校では毎年授業改善推進プランを作成して授業の改善を行い、学力向上に取り組んでいるが、雪谷中学校では、特に対話的な学びを取り入れることに力を入れている。今後も高い意識をもって学力向上に取り組んでいく。	A B C D	5 0 0 0	○生徒が学びをとりこぼさない工夫がなされていると思います。自分の意見を発信する機会が多くあることが90%という高い肯定的回答につながっているのかと思います。 ○前向きに学習ができ、自分の考えを伝えたり、相手の話を聞いたり、意見が言えることはとても大切だと思います。双方思いやれる気持ち、意欲を高められる環境が出来ているから回答も高いのだと思います。これは先生方のご努力のおかげだと思います。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3							
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4							
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		授業の中で、生徒が他者の意見を聞いたり、自分の意見を発表したりする活動を設定し、思考力・判断力・表現力を育成する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン３　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	学校評価アンケート 生徒項目５ 「学校の決まりや集団のマナーを、きちんと守って生活している」 生徒項目６ 「いじめを許さない気持ちを持ち、友達とはお互いを尊重して、仲良く生活することができている」 への肯定的回答の%	4: 1 80%以上 2 80%以上 3: 1 70%以上 2 70%以上 2: 1 60%以上 2 60%以上 1: どちらかが60%未満	4	生徒項目5「学校の決まりや集団のマナーを、きちんと守って生活している」への肯定的回答は96%であった。 ほとんどの生徒が学校の決まりや集団のマナーを守って生活しており、こうした生徒の意識が、落ち着いた学校の雰囲気を形作っていることがわかる。みんなが決まりやマナーを守っていることにより、生徒たちは安心して生活し、自己の伸長に努めることができる。今後も落ちついた生活を送ることができるよう、きめ細かな生活指導に努めたい。 生徒項目6「いじめを許さない気持ちを持ち、友達とはお互いを尊重して、仲良く生活することができている」への肯定的回答も96%であった。 こちらも、ほとんどの生徒が他者を尊重し、友達と仲良く生活していることがわかる。この項目は、学校生活の基盤として、雪谷中学校が最も重視している取り組みであり、いじめを許さず自他を尊重する姿勢は、あらゆる教育活動を通して繰り返し指導している。また、雪谷中学校の生徒たちが友達を尊重し、明るく穏やかに生活しようとする姿勢は、ご家庭の教育力の高さにも支えられている。ご家庭の教育に感謝したい。 同時に、3%の生徒が「どちらかといえばそう思わない」、1%の生徒が「そう思わない」と回答している現状を真摯に受け止め、人間関係に困り感を持っている生徒たちの支援に努めたい。学校では、毎週連絡会を行うなど、教員間の情報共有を密にすることに取り組んでおり、いじめや人間関係トラブルの早期発見に努め、組織的に解決を図る態勢を作っている。今後も組織的にいじめの解消に取り組み、100%の生徒が安心して生活できる学校づくりに努める。	A B C D	5 0 0 0	○落ち着いた環境が基盤にあると色々な方面で良い影響があると思います。引き続きこの点については注力いただけると良いですね。 ○学校が一定のルールの中、穏やかに過ごせる所なのだと感じました。学びの場としてふさわしい空間となっていると思いました。 ○学校の様子をみる機会はあまりありませんでしたが、生徒さんがあいさつをしてくださったり、穏やかな表情をしているのを見ると安心して生活ができているのだと思いました。学校と家庭がうまくいっているのだと思います。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3							
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4							
		苦手な分野があったり、支援が必要な生徒に関する連絡会議を定期的に実施する。	4:月1回以上実施した。 3:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 2:学期に1回（年間3回）以上行った。 1:実施しなかった。	4							
プラン４　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	学校評価アンケート 生徒項目７ 「『早寝・早起き・朝ごはん』に取り組む、進んで体を動かすなど、自分の健康に気を付けて生活している」 生徒項目８ 「部活動、学校行事等に積極的に参加している」 への肯定的回答の%	4: 1 80%以上 2 80%以上 3: 1 70%以上 2 70%以上 2: 1 60%以上 2 60%以上 1: どちらかが60%未満	4	生徒項目7「『早寝・早起き・朝ごはん』に取り組む、進んで体を動かすなど、自分の健康に気を付けて生活している」への肯定的回答は80%であった。 毎朝の健康チェックカードに、体温や体調とともに起床時間・就寝時間・朝ごはんを食べたかを記入させ、生徒が自分の生活を意識できるよう取り組んでいる。8割の生徒が達成できており、ご家庭の教育に感謝したい。学校でも引き続き、健康な体づくりに向けて指導を行っていく。 生徒項目8「部活動、学校行事等に積極的に参加している」への肯定的回答は92%であった。 部活動に参加している生徒は熱心に活動しており、活動時間の短縮などの制限があった中、立派な成果を多くあげている。学校行事でも、時間の短縮やマスクの着用などの制限を守りながら、自分のできることを精一杯やろうとする姿が見られた。今後も、生徒が少しでも充実した体験ができるよう活動を工夫していきたい。	A B C D	5 0 0 0	○心とからだの成長期に満足を得られて学校生活を送れていると思いました。 ○朝食を食べるのは成長期の子どもたちにとって、大事なことなのでこれからも続けてください。 ○各ご家庭で子どもたちを見守っている様子がうかがえます。行事の制限が多い中、学校行事や部活動を思う存分楽しんで欲しいと願っています。 ○規則正しい生活は人生の生活の中で大切なことですので、きちんと身に付けて欲しいと思います。体力向上は生活習慣が大切だと思います。コロナ禍で短縮、マスク着用で成果をあげられる事は素晴らしいと思います。さらに生徒さん達に頑張って欲しいです。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
		全教員が部活動や委員会活動を担当し、自分から動く姿勢や日常的に体を動かす習慣を身に付けさせる。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン５　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	学校評価アンケート 生徒項目９ 「授業は映像や図で見せるなど、工夫があってわかりやすい」 生徒項目10 「困ったことがあるときは、先生に悩みを話したり、相談できる」 への肯定的回答の%	4: 1 80%以上 2 80%以上 3: 1 70%以上 2 70%以上 2: 1 60%以上 2 60%以上 1: どちらかが60%未満	3	生徒項目9「授業は映像や図で見せるなど、工夫があってわかりやすい」への肯定的回答は92%であった。 良い教育環境としてまず重要なことは「授業がわかりやすい」ということである。雪谷中学校では、生徒による授業アンケートを実施し、「わかりやすい授業」づくりに努めている。9割の生徒が「授業がわかりやすい」と回答しており、実践の成果が見られる。今後も引き続き「わかりやすい授業」づくりに努める。 生徒項目10「困ったことがあるときは、先生に悩みを話したり、相談できる」への肯定的回答は72%であった。 教員と生徒との信頼関係を構築するよう取り組んでいるが、SNSのトラブルなど、大人に話しにくく、関係が悪化してから先生に相談するケースも見られた。相談には丁寧に対応するとともに、重大な悩みを自分一人で抱え込むことがないよう、学校外の相談機関の紹介も行っている。	A B C D	3 2 0 0	○授業への工夫は、生徒にも伝わり、先生方の日々の関わりの深さを感じる反面、個人的なことを先生に打ち明けたり、相談することには抵抗を感じている人もいるのだと思いました。難しいところですね。 ○生徒さんが安全・安心に学校生活が送れていることは良くわかります。今後も継続して取り組んでいただきたいと思います。評価は4でも良いと思いました。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3							
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3							
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							
プラン６　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	学校評価アンケート 保護者項目11 「学校は、学校の情報を保護者・地域に伝えている（学校だより、学年だより、HPなど）」 保護者項目12 「学校では、地域社会の一員としての自覚を持たせるような活動を行っている」 に対する肯定的回答の%	4: 1 80%以上 2 80%以上 3: 1 70%以上 2 70%以上 2: 1 60%以上 2 60%以上 1: どちらかが60%未満	3	保護者項目11「学校は、学校の情報を保護者・地域に伝えている（学校だより、学年だより、HPなど）」への肯定的回答は92%であった。 現在は、感染症拡大防止の観点から保護者の方々が学校を訪れる機会が減っているが、今年度は年度当初に対面の保護者会を行い、また学校HPで生活の様子を発信するなど、学校からの情報発信に努めた。引き続き、ていねいな情報発信を心がけたい。 保護者項目12「学校では、地域社会の一員としての自覚を持たせるような活動を行っている」への肯定的回答は75%であった。 現在は地域に出て活動することができないため、やや低い評価になっているが、校内で実施できるボランティア活動を生徒自身が考えて実施したり、職場体験や職場訪問に代わるキャリア学習を工夫し、地域の方から職業講話をいただくなど、生徒に良い体験をさせることができたことは成果と考えている。今後も教育活動を工夫し、生徒の体験を充実させていきたい。	A B C D	3 2 0 0	○学校HPでの発信がとても充実したようで良かったです。 ○保護者の多くが学校に理解、協力を示していると思いました。 ○この2年お手伝いをしていただく事が出来ないですが、コロナが落ち着いたらよろしくお願いします。 ○朝の落ち葉拾い活動は素敵なボランティア活動だと思いました。ぜひ続けて欲しいです。 ○回答率が92%はすごく高いです。学校の様子が分かることは保護者にとってはありがたい事ですので、先生方の一生懸命さがよく分かります。社会に出る前の体験として職場体験・訪問はとても大切ですので、引き続き充実させていただきたいと思います。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4							
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3							
		「学校だより」「学年通信」等を通して、学校の情報を保護者に伝え、学校と家庭の連携を図る。	4:月1回以上実施した。 3:学期に2～3回実施した。 2:学期1回以上実施した。 1:実施しなかった。	4							

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数